



みみずく 通信

京都市手話学習会「みみずく」
本部機関紙部発行
会長 石神博行
事務局 FAX075-812-6112
みみたん通信 第60号
<http://www.mimizuku-kyoto.com/>
2024年 7月3日発行

2023年度 本部定期総会報告

京都市手話学習会「みみずく」本部定期総会が4月29日（月・祝）、京都市聴覚言語障害センターにて開催されました。

会員総数 324名のうち、当日 出席者 58名 委任状 210名 計 268名でしたので、会員総数の1/2以上となり、総会は成立いたしました。

みみずく会石神会長の挨拶、京都市聴覚障害者協会中山会長の挨拶の後、議長は右京支部の徳永さんが選出されました。

議長進行により、2023年度全体総括報告・会計決算報告（みみずく60周年記念事業決算報告を含む）専門部（学習交流部・機関紙部）活動報告が行われました。

続いて各担当より2024年度活動方針案・会計予算案が示されました。

質疑応答では、「レインボープラン3」についてもう少し具体的な活動方針を示してほしいという質問が出され、石神会長が答えられる場面もあり積極的な意見交換もされるなか総会は進行し、いずれの議案も賛成多数で可決されました。

本部役員の信任投票は、選挙管理委員担当によりスムーズに進み、全員賛成で別掲の役員が信任されました。

次に、各支部活動報告及び支部長・本部運営委員の紹介が行われました。

最後に、2024年度も引き続き会長に就任されました石神氏の挨拶をもって定期総会を終えました。

（山科支部夜の部 西田弘美）

目 次

1・・・2023年度定期総会報告	6・・・北部の皆さんのお話・もっちーの思い出
2・・・2024年会長あいさつ・役員体制	7・・・「みみずく」全体研修会に参加して
3・・・新役員あいさつ	8・・・近畿手話サークルフォーラムに参加して
4・・・新役員あいさつ	9・・・京都ろうあ者大会
5・・・新役員あいさつ	10・・・行事予定・編集後記

新年度 会長あいさつ



今年度も引きつづき会長としてご承認を頂きました石神でございます。

昨年度は、京都市手話学習会「みみずく」の創立60周年を記念事業として、様々な取り組みを行い、会員お一人お一人のご尽力と、聴覚障害者協会や関係者のご協力のもと無事に成功裏に終えることができました。ありがとうございました。

この勢いのままに、新しい年度も本部の運営委員会を中心に、会員お一人お一人と共に企画し、共に学び、交流し、大いに活動したいと心から思っています。

みなさま、どうか1年間よろしくお願いします。

京都市手話学習会「みみずく」

会長 石神博行

2024 年度 三役及び専門部長

会 長 石神 博行

副会長 安政 裕之 ・ 鈴木 翔悟

事務局長 川合 久美子 事務局次長 一村 説子

会計局長 尾島 美佳 会計局次長 竹井 友子

学習交流部長 高瀬 るみ子

機関紙部長 持田 隆彦

よろしく 願 い し ま す

新副会長あいさつ

この度、京都市手話学習会「みみずく」本部運営委員副会長に就任しました、鈴木翔悟と申します。

2023 年度定期総会にて、ご出席頂きました皆様から信任を得られましたこと、心から感謝と御礼を申し上げます。

私は今年の6月で、みみずく会に入会して1年になります。

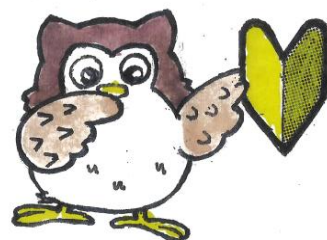
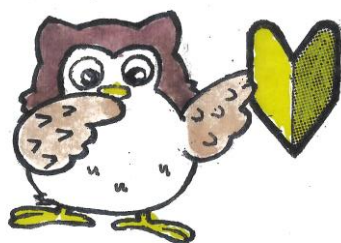
手話を学ぶ前は「聴こえない人が困っている時、助けるために覚えるもの」としか捉えていませんでした。「無知は罪なり、知は空虚なり…」という言葉がありますが、思えば当時の私に当てはまるもので、意識せぬ偏見だったなと痛感しています。

みみずく会と出会ってから、私の人生は大きく変わり始めました。ろう者との交流や様々な行事に参加していくうちに、ろう者の生活事情や差別問題、共生社会への実現を目指すなど、今まで知り得なかった事を学び経験することが出来ました。

これからは副会長として様々な活動に取り組み、ろう者との交流を深めていきます。

そして『手話を学んで、ろうあ者の良き友となり、すべての人に対する差別や偏見をなくしていくために努力し、その活動を通じて私たち自身も向上していく』この目的を実現・実行するためにも、自身の手話技術の向上に努め、行事に参加し見聞を広めたりと、『〇〇したい』がたくさん！あります。

間違い失敗を恐れず、会長の石神さんをはじめ、御縁のある皆様からの支援と協力を賜り、社会に貢献できる存在になれるよう努めます。



新事務局長あいさつ



2024年度本部事務局長になりました、南支部の川合久美子です。

南支部では今まで支部長など、いろんな役員をしてきました。本部運営委員になって今年度で5年目になります。

初めて運営委員になった時は事務局員でしたが、コロナ禍でほとんど活動しないまま一年が過ぎてしまい、昨年度やっと運営委員会の流れや運営委員(事務局)の仕事が少しずつですが分かってきた所です。

みみずく会ではいろんな方とおしゃべりや交流が出来、また要員として行事に参加していろんな経験をさせて頂く事が出来て、私にとってはなくてはならない活動となり感謝しています。

今年度は事務局長となりましたが、まだまだ分かっていないことも沢山あり皆さんに助けってもらうことも多いと思いますが、少しでもお役に立てればと思います。

私自身は、皆さんと一緒に楽しみながら活動できたらと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新事務局次長あいさつ

今年度、事務局次長を担当することになりました、下京支部の一村（いちむら）説子です。

事務局長の川合さんの補佐として、丁寧かつスピーディーに対応出来るように努めます。

「みみずく会」入会歴が短く、知らないことがたくさんありますので、皆さんに教えていただきながら事務局の雑用係として、楽しんでいきたいと思っています。

よろしくお願いいたします。



新会計局長あいさつ

今年度、会計局長を務めます中京支部昼の部の尾島美佳と申します。

本部運営委員 2 年目にしてこのような大役をお引受けすることとなり不安な気持ちもありますが、一つ一つ教えていただきながら、自分ができることを精一杯がんばりたいと思います。



また、微力ながらも活動に携わることで、今後の自分とみみずく会にとって少しでもプラスになればと思っています。

楽しむ気持ちを持って活動していきたいです。

1 年間どうぞよろしくお願いいたします。

2024年度（令和6年）も無事、みみずく会本部の役員体制が整い運営が開始されています。

みみずく会員全員で、楽しく・積極的に活動していきましょう！



今後

とも

よろしく

お願い

します

京都市手話学習会「みみずく」目的

手話を学んで、ろうあ者の良き友となり、全ての人に対する差別や偏見をなくしていくために努力し、その活動を通じて私たち自身も向上していく



3月11日(月) 19:30～ オンライン(京都市会場：市聴言センター)にて、京都府手話サークル連絡会(京手連)主催のDVD上映会「北部の皆さんのお話を観よう！」が開催されました。参加者は会場8人と画面数34(1画面で集合視聴あり)でした。

まずは北部の永濱さんに北部の活動のこと、聞こえない人のことについて話していただきました。北部では、聞こえない人にご自身のことを話していただいて、それを録画、DVD作成、販売する活動をされています。今回はそのDVDをみんなで観ました。永濱さんからお話について少し説明していただき、それから動画(手話)を観たので、内容が良く分かりました。

お仕事のこと、子育てのことなどのお話でした。当時、手話通訳がいなかったため、家族にお願いして伝えてもらっていた。しかし、必要な情報をすべて伝えてもらえず、困ったそうです。それで、手話通訳が必要だと思い要望活動をされたそうです。行政や社会に訴えて、要望を獲得していく力は「本当にすごい！」と、つくづく思います。

「聞こえない人に学ぶ」大切さが、ここにありますね。

(上京支部夜の部 渡辺久美)



もっちーの思い出

この時期、雨に濡れたあじさいが色鮮やかで、私は好きです。

色が変わるから嫌う人もあるようです。あじさいは、土によって色が変わります。みみずく会が誕生して5～6年が過ぎた頃、ろう児のお母さんが何人か入会され、10代20代の会員の中では、子育ての話もやりにくい。そこでお母さんたちの班「あじさい班」が誕生しました。

あじさいの花って一つ一つは、つまらない花ですが、集まると大きな大輪の花になります。そして、その土地その土地に合わせた色の花が開きます。

みみずく会員も一人一人は大した力もない平凡な会員だけど、みんなで力を合わせれば大輪の花になる。そんな思いがみみずくの「あじさい班」にはありました。今はない、遠い昔の話です。

(南支部 持田隆彦)



2023 年度「みみずく」全体研修会に参加して

3月17日に「みみずく」全体研修会に参加しました。

午前中は「わたしたちがサークルに行くワケ」というテーマでの市聴協中京支部の岡田幸美さんと田原里絵さんの対談でした。

お二人は楽しい掛け合いで沢山のお話をしてくれました。

その中で「聴者は手話がなくても生活するうえで何も困ることはない。にも関わらず手話を学ぼう！覚えよう！とサークルに通う。その姿を見て心を動かされたからサークルに行く」というようなことを言ってくれたのがとても印象的でした。

午後からは分科会でした。

私の参加した分科会3「伝えるってどういうこと？」では前半、4グループに分かれて2つのゲームをしました。最初は、それぞれのグループの「お題」を手話なしのジェスチャーで表現して他のグループに当ててもらうゲームでした。私のグループの「お題」は「大谷翔平選手」でした。メンバー5人で「二刀流・愛犬のデコピン・結婚」を表現して上手く伝えられました。

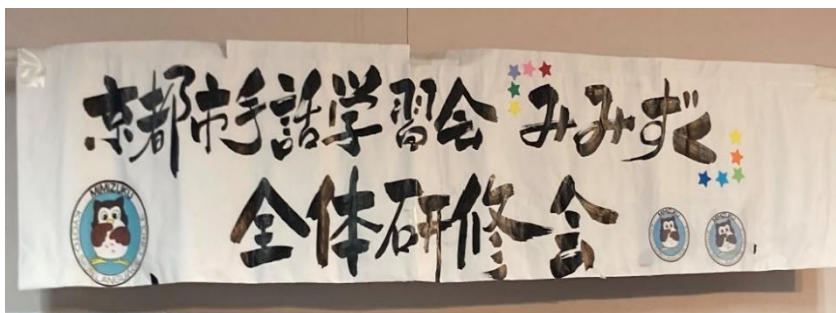
次は3つの品の伝言ゲームでしたが、表現力が必要な内容だったので、なかなかうまく伝わらず苦戦しました。

後半は全員が輪になり、通訳の場やサークルで「伝える」ことが成功したことと失敗だったことの発表、報告がありました。

伝える側と受け手の間に、お互いが知っている情報があると上手く伝わり、情報を知らない状態だと上手く伝わらないことを学びました。

伝える方法や技術を掴んで表現することが大事だと感じました。

(上京支部昼の部 服部恵美子)





近畿手話サークルフォーラムに参加して

今年は、日程が合いやっとな参加することができました。何年ぶりだろう…。

午前中はパネルディスカッション。近畿の6府県の代表の方が手話サークルについてそれぞれの地域の取り組みや課題について話されました。京都からは、京手連を代表して、わが「みみずく」の高瀬るみ子さんが話されました。次の世代へのバトンタッチやろう者の参加が減っていること等々、いずこも同じ、と思うことがたくさんありました。私の聞き間違いかもしれませんが、「講座を終えた人がサークルに…」というニュアンスのことを話されていた地域がいくつかあり、「手話に興味を持ったら、まずサークルに试试看ては？」と思っていた私は、少し？（はてな）がとんでいました。

午後は、特別企画「知っていますか？手話サークルに関する指針」に参加しました。

「手話サークルに関する指針」不勉強な私は全く知りませんでした。しかもそれを出しているのは全日本ろうあ連盟。「なぜ、ろう者が手話サークルの指針を？」素朴な疑問ですが、サークルはもともと「ろう者の“手話コミュニケーション“への願いに呼応して民間の手話学習グループがサークルを立ち上げた（1963年みみずく会）」とのこと。納得です。サークルはろう団体にとって欠かせないものだったのです。その後、ろう者の生活や権利を守るため、様々な活動、運動をお互いに協力して一緒にやってきた歴史がありました。その流れの中で、手話通訳養成講座ができたり、手話通訳の公共機関への設置なども進んだりしてろう者の社会参加が前進してきたようです。そして、今、IT化も進み、サークルが誕生したころにサークルが担っていた役割は様々な機関に分担されています。

サークルとろう協との関係。私が初めてサークルに参加したころと比べると希薄になってきたのかなあ、と少し感じています。「サークルには、もう期待されてないのかなあ。」ふとそんなことを思うことがありました。「サークル行ってもつまらないし…」ろう者はそんな風に思っているのかもしれない、とも思いました。

「違う！もっとちゃんと話さなければ！」今日のお話を聞いて強く思いました。

今の社会の状況の中で個々のサークルのあり方は以前とはずいぶん違ったものになっていると思います。ろう協も以前とは違うでしょう。お互い求めているものも見ているものも少しずつかわってきているのかもしれませんが。だからこそ、たくさんたくさん話して、協議して活動していくことが、今、大切なのだと感じました。この関係は決して希薄になってはいけないのだと。

サークルとろう協、それぞれに団体として独立し、そのうえで「相互発展のためにはお互いの理解と協力関係が望まれる」、しっかりと心に残りました。

この「手話サークルに関する指針」、サークルに持ち帰り、みんなで学習してみたいと思います。いろいろなきっかけや思いを持ってサークルに集まった仲間ですが、手話を学ぶものとして、サークルとろう者の歴史や、手話を学ぶだけではないもっと深いところでのつながりを感じてもらえたらと思います。

（南支部 小柴千裕）

第11回京都ろうあ者大会

2024年4月21日（日）、京都ろうあ者大会へお気楽一般参加してきました！会場は3月に長岡記念文化会館で行われた「耳の日記念集会」の長岡京市のおとなり、向日市にある永守重信市民会館でした。

みみずく会員の皆さまの中には、まだ行かれたことのない方もいらっしゃるかもしれませんので、今回はおすすめもかねて感想を書きます。

京都ろうあ者大会では京都府聴覚障害者協会の活動方針が示されたり、新たに合格した手話通訳者、手話通訳士、京都府聴覚言語障害者福祉協会の新入職員が紹介されたり、この日だけで盛りだくさんの情報を知ることができます。私は昨年、舞台上上がって皆さまからの祝福の拍手をいただきましたので、今年は登壇される皆さまの顔を見ながら心の中で応援しながらヒラヒラと大きな拍手を贈りました。

午後はデフリンピック冬季大会、スノーボード競技の米内山監督と小野田選手のトークショーがありました。動画を流しながら種目について説明をいただいたので、わかりやすかったです。一方で、デフリンピックにおける認知度の低さから職場の理解が得られず、監督や選手の負担につながっているなどの課題が語られました。

昼食は乙訓地域ならではの「たけのこご飯弁当」をいただきました。最後の福引まで大盛り上がり。長らく会えていなかった友人とも再会でき、良き一日となりました。

（中京支部夜の部 竹井友子）



行 事 予 定

- ◇ 7月 7日（日） 聴覚障害者の豊かな暮らしを考える会
- ◇ 8月 4日（日） 市聴障協成人講座
- ◇ 8月16日（金） 文化のつどい
- ◇ 9月 8日（日） さがの手話まつり
- ◇ 10月13日（日） 楽しいスポーツ大会

編 集 後 記

原稿ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。
みみたん通信60号発行することができました。



私事ですが、NHK 大河ドラマ「光る君へ」にはまっています。
戦国時代ではない華やかな画像に惹かれるのか、自分でも理由はよくわかりません。

久しく連続ドラマなど見ていなかった。思えば若いころは、トレンドドラマと言われていた恋愛もののドラマを欠かさず見ていて、「ワクワク」「ドキドキ」主人公に感情移入していました。

気づけばなんかそのような感情の少ない日常になっている気がします。
もっともっと、色々な経験や発見をして、「ワクワク」「ドキドキ」できる1年にしたいなと思っています。できるかな。

機関紙部 西田弘美